様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	水戸電子専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報処理工学	夜・通信	203	160	
	情報メディア学科	夜・通信	180	160	
	情報システム学科	夜・通信	246	240	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	水戸電子専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<https://www.mito.ac.jp/>) で公開する

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	旅行会社 相談役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	企画
非常勤	一般企業 社取締役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	コンプライアンス
非常勤	一般企業 社取締役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	労務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	水戸電子専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ●成績評価の方法は、教員による教務会議で合議され、毎年学生に配布される「学生心得」の中に明記している。新年度始めのホームルームにて、各担任が学生心得を学生に口頭で詳説する。試験や成績評価の方法を改善するために、1年に1度、見直しのための教務会議を設けている。 ●各カリキュラムの授業方法、内容、到達目標は、学校内フォーマットに則る形で、それぞれの授業計画(シラバス)に記載し、掲示および配布している。各カリキュラムの「成績評価の基準(100点満点とした場合の%表示)」もシラバス上に明記している。 ●シラバスの作成過程および時期 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度末の2月 カリキュラム内容を検討 ・前年度末の3月 教育課程編成委員会において審議 同月 授業計画(シラバス)決定 ●シラバスの公表時期 新年度始めの4月 	
授業計画書の公表方法	ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学習成果の評価にかかわる取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ●学科共通評価基準 <ul style="list-style-type: none"> ・学生へ配布する「学生心得」でも告知している評価方法に従って評価し、ランクはA(優)、B(良)、C(可)、D(不可)とする。 ・履修終了の認定は、A、B、Cに与えられる。 ・Dの場合、再試験などの救済措置が取られるが、それに対しても不合格だった場合留年が決定する。 ・評価項目は次の3項目とする。(項目左の数値は全体評価中の重み) <ul style="list-style-type: none"> ①出席状況 30% <ul style="list-style-type: none"> 各科目の授業数に対して、2/3を出席しなくてはならない。 皆勤を満点とし欠席数を授業数に応じて減点していく。 ②授業態度・小テスト 30% <ul style="list-style-type: none"> 各科目の授業内に実施された、小テストの結果、提出物の状況、授業態度などを考慮し、全ての点において問題ない場合、満点を与える。そこから減点していく。 ③定期試験・成果物 40% <ul style="list-style-type: none"> 定期試験は前期末、後期末の年2回実施し100点満点で行う。試験結果がそのまま定期試験の点数となる。また、実習科目では成果物が評価対象となる。 評価項目は以上①～③の合計点で最終評価を行う。 ・各科目の詳細な評価は、各担当者作成の授業計画の評価基準に応じて評価を行う。 ・各学科の学科長は各科目の担当者から挙げてきた評価を総合して纏める。 ・纏めたものを前期末・後期末に行われる判定会議にかけ最終評価が決定する。 <p>※各科目別の評価基準に関しては授業計画を参照のこと。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>●成績評価における客観指標設定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科において、学科共通評価基準に従い学生の履修科目における成績内容をA、B、C、Dの4段階で評価したものを点数化する。 各学科において、学生の資格取得に応じた点数を算出したものを成績評価に含める。なお資格の重みづけに関しては、取得難易度に応じた独自基準を用いるものとする。 <p>※各学科において、①と②の点数を合計したものを最終成績とする。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>■ディプロマポリシー</p> <p>水戸電子専門学校は、「地域社会の向上に貢献できる人間性豊かな専門的職業人の養成」のため、各学科の専門分野に関し、専門的知識や技能・実践的能力の修得及び社会人としての力量の涵養を目的とした教育課程について、学則に定める所定の修業年限以上在学し、課程を終了したと認めた者には、卒業を認定し専門士を授与する。</p> <p>●教務会議において卒業認定に係る方針（および成績基準）を、「学生心得」に詳細に記載し、それを元に、成績を付与し卒業認定の判定を行う。</p> <p>●学生心得にある通り、必要な全ての科目を履修し、成績評価において「D」判定科目が一つも無いことが卒業要件となっている。ただし、教員による「卒業判定会議（卒業試験が終わった2月初旬に実施。※1月に仮判定会議を実施する場合もある）」において、「D」判定のある科目においても、当該科目を担当する教員および当該学生をよく知る教員が「卒業可に値する」と認めた場合、レポート課題や期間限定での補講を実施することによって卒業を認定する措置がとられる。</p> <p>●「D」判定の残る学生で、上記措置をとるに値しないと2/3以上の教員が認めた場合、当該学生の保護者も交えた3者（あるいは教員複数参加による）面談を行い、その後学校長と相談の上、「卒業不可」という判定をくだす。当該学生は「留年」あるいは「退学」の手続きに入る。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	水戸電子専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mito.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	https://www.mito.ac.jp/
財産目録	学校事務局に備え付け・閲覧又は配布
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧又は配布
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧又は配布

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報処理工学	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 単位時間/単位	883 単位時間 /単位	単位時間 /単位	917 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		79人	0人	9人	0人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）【様式第2号の3より再掲】

- 成績評価の方法は、教員による教務会議で合議され、毎年学生に配布される「学生心得」の中に明記している。新年度始めのホームルームにて、各担任が学生心得を学生に口頭で詳説する。試験や成績評価の方法を改善するために、1年に1度、見直しのための教務会議を設けている。
- 各カリキュラムの授業方法、内容、到達目標は、学校内フォーマットに則る形で、それぞれの授業計画（シラバス）に記載し、掲示および配布している。各カリキュラムの「成績評価の基準（100点満点とした場合の%表示）」もシラバス上に明記している。
- シラバスの作成過程および時期
前年度末の2月 カリキュラム内容を検討
前年度末の3月 教育課程編成委員会において審議
同月 授業計画（シラバス）決定
- シラバスの公表時期 新年度始めの4月

成績評価の基準・方法

（概要）【様式第2号の3より再掲】

- 学科共通評価基準
 - ・学生へ配布する「学生心得」でも告知している評価方法に従って評価し、ランクはA(優)、B(良)、C(可)、D(不可)とする。
 - ・履修終了の認定は、A、B、Cに与えられる。
 - ・Dの場合、再試験などの救済措置が取られるが、それに対しても不合格だった場合留年が決定する。
 - ・評価項目は次の3項目とする。（項目左の数値は全体評価中の重み）
 - ①出席状況 30%
各科目の授業数に対して、2/3を出席しなくてはならない。
皆勤を満点とし欠席数を授業数に応じて減点していく。
 - ②授業態度・小テスト 30%
各科目の授業内に実施された、小テストの結果、提出物の状況、授業態度などを考慮しての点において問題ない場合、満点を与える。そこから減点していく。
 - ③定期試験・成果物 40%
定期試験は前期末、後期末の年2回実施し100点満点で行う。試験結果がそのまま定期試験の点数となる。また、実習科目では成果物が評価対象となる。
評価項目は以上①～③の合計点で最終評価を行う。
 - ・各科目の詳細な評価は、各担当者作成の授業計画の評価基準に応じて評価を行う。
 - ・各学科の学科長は各科目の担当者から挙がってきた評価を総合して纏める。
 - ・纏めたものを前期末・後期末に行われる判定会議にかけ最終評価が決定する。
- ※各科目別の評価基準に関しては授業計画を参照のこと。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】</p> <p>■ディプロマポリシー</p> <p>水戸電子専門学校は、「地域社会の向上に貢献できる人間性豊かな専門的職業人の養成」のため、各学科の専門分野に関し、専門的知識や技能・実践的能力の修得及び社会人としての力量の涵養を目的とした教育課程について、学則に定める所定の修業年限以上在学し、課程を終了したと認めた者には、卒業を認定し専門士を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務会議において卒業認定に係る方針（および成績基準）を、「学生心得」に詳細に記載し、それを元に、成績を付与し卒業認定の判定を行う。 ●学生心得にある通り、必要な全ての科目を履修し、成績評価において「D」判定科目が1つも無いことが卒業要件となっている。ただし、教員による「卒業判定会議（卒業試験が終わった2月初旬に実施。※1月に仮判定会議を実施する場合もある）」において、「D」判定のある科目においても、当該科目を担当する教員および当該学生をよく知る教員が「卒業可に値する」と認めた場合、レポート課題や期間限定での補講を実施することによって卒業を認定する措置がとられる。 ●「D」判定の残る学生で、上記措置をとるに値しないと2/3以上の教員が認めた場合、当該学生の保護者も交えた3者（あるいは教員複数参加による）面談を行い、その後学校長と相談の上、「卒業不可」という判定をくだす。当該学生は「留年」あるいは「退学」の手続きに入る。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定試験対策特別講習を放課後及び休業期間を利用して実施している。 ・就職支援については、個別企業説明会の随時開催、また就職部と担任が連携して就職活動をサポートする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
61人 (100%)	1人 (1.6%)	60人 (98.4%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
県内・県外 IT 企業、販売、製造 等			
(就職指導内容)			
・就職指導部および担任による面接指導や企業情報指導など履歴書&エントリーシート作成アドバイス、筆記試験講座、企業訪問ツアー、卒業生の講座等に加えインターンシップの導入による現場実習を取り入れている			
(主な学修成果(資格・検定等))			
情報処理安全確保支援士 応用情報技術者、基本情報技術者、IT パスポート			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
128人	16人	12.5%
(中途退学の主な理由)		
精神的な不安定(心療内科の通院等)、学習意欲の減退、進路変更、体調の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
学生との個別面談および保護者を交えての三者面談の実施		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報メディア学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 単位時間/単位	766 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,034 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	16人	0人	4人	2	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）【様式第2号の3より再掲】

- 成績評価の方法は、教員による教務会議で合議され、毎年学生に配布される「学生心得」の中に明記している。新年度始めのホームルームにて、各担任が学生心得を学生に口頭で詳説する。試験や成績評価の方法を改善するために、1年に1度、見直しのための教務会議を設けている。
- 各カリキュラムの授業方法、内容、到達目標は、学校内フォーマットに則る形で、それぞれの授業計画（シラバス）に記載し、掲示および配布している。各カリキュラムの「成績評価の基準（100点満点とした場合の%表示）」もシラバス上に明記している。
- シラバスの作成過程および時期
 - ・前年度末の2月 カリキュラム内容を検討
 - ・前年度末の3月 教育課程編成委員会において審議
 - ・同月 授業計画（シラバス）決定
- シラバスの公表時期 新年度始めの4月

成績評価の基準・方法

- 学科共通評価基準
 - ・学生へ配布する「学生心得」でも告知している評価方法に従って評価し、ランクはA(優)、B(良)、C(可)、D(不可)とする。
 - ・履修終了の認定は、A、B、Cに与えられる。
 - ・Dの場合、再試験などの救済措置が取られるが、それに対しても不合格だった場合留年が決定する。
 - ・評価項目は次の3項目とする。（項目左の数値は全体評価中の重み）
 - ①出席状況 30%
 - 各科目の授業数に対して、2/3を出席しなくてはならない。
 - 皆勤を満点とし欠席数を授業数に応じて減点していく。
 - ②授業態度・小テスト 30%
 - 各科目の授業内に実施された、小テストの結果、提出物の状況、授業態度などを考慮し、全ての点において問題ない場合、満点を与える。そこから減点していく。
 - ③定期試験・成果物 40%
 - 定期試験は前期末、後期末の年2回実施し100点満点で行う。試験結果がそのまま定期試験の点数となる。また、実習科目では成果物が評価対象となる。
 - 評価項目は以上①～③の合計点で最終評価を行う。
 - ・各科目の詳細な評価は、各担当者作成の授業計画の評価基準に応じて評価を行う。
 - ・各学科の学科長は各科目の担当者から挙がってきた評価を総合して纏める。
 - ・纏めたものを前期末・後期末に行われる判定会議にかけ最終評価が決定する。
- ※各科目別の評価基準に関しては授業計画を参照のこと。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】</p> <p>■ディプロマポリシー</p> <p>水戸電子専門学校は、「地域社会の向上に貢献できる人間性豊かな専門的職業人の養成」のため、各学科の専門分野に関し、専門的知識や技能・実践的能力の修得及び社会人としての力量の涵養を目的とした教育課程について、学則に定める所定の修業年限以上在学し、課程を終了したと認めた者には、卒業を認定し専門士を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務会議において卒業認定に係る方針（および成績基準）を、「学生心得」に詳細に記載し、それを元に、成績を付与し卒業認定の判定を行う。 ●学生心得にある通り、必要な全ての科目を履修し、成績評価において「D」判定科目が1つも無いことが卒業要件となっている。ただし、教員による「卒業判定会議（卒業試験が終わった2月初旬に実施。※1月に仮判定会議を実施する場合もある）」において、「D」判定のある科目においても、当該科目を担当する教員および当該学生をよく知る教員が「卒業可に値する」と認めた場合、レポート課題や期間限定での補講を実施することによって卒業を認定する措置がとられる。 ●「D」判定の残る学生で、上記措置をとるに値しないと2/3以上の教員が認めた場合、当該学生の保護者も交えた3者（あるいは教員複数参加による）面談を行い、その後学校長と相談の上、「卒業不可」という判定をくだす。当該学生は「留年」あるいは「退学」の手続きに入る。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定試験対策特別講習を放課後及び休業期間を利用して実施している ・就職支援については、個別企業説明会の随時開催、また就職部と担任が連携した就職活動をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0.0%)	14人 (87.5%)	2人 (12.5%)
(主な就職、業界等) デザイン/サービス業（デザイン、総合、販売）、人材派遣（事務）、印刷（営業） テクニカル/サービス業（総合、販売）、PC販売・サポート店、家電量販店、製造業			
(就職指導内容) ・就職指導部および担任による面接指導や企業情報指導など履歴書&エントリーシート作成アドバイス、筆記試験講座、企業訪問ツアー、卒業生の講座等に加えインターンシップの導入による現場実習を取り入れている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) デザイン/AFT色彩検定、マルチメディア検定、Webデザイナー検定 テクニカル/ITパスポート、家電製品アドバイザー、日商販売士、MOS			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	1人	3.6%
(中途退学の主な理由) 精神的な不安定（心療内科の通院等）、学習意欲の減退		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生との個別面談および保護者を交えての三者面談の実施		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 単位時間/単位	1,060 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,640 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	40人	0人	1人	2人	3人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）【様式第2号の3より再掲】

- 成績評価の方法は、教員による教務会議で合議され、毎年学生に配布される「学生心得」の中に明記している。新年度始めのホームルームにて、各担任が学生心得を学生に口頭で詳説する。試験や成績評価の方法を改善するために、1年に1度、見直しのための教務会議を設けている。
- 各カリキュラムの授業方法、内容、到達目標は、学校内フォーマットに則る形で、それぞれの授業計画（シラバス）に記載し、掲示および配布している。各カリキュラムの「成績評価の基準（100点満点とした場合の%表示）」もシラバス上に明記している。
- シラバスの作成過程および時期
 - ・前年度末の2月 カリキュラム内容を検討
 - ・前年度末の3月 教育課程編成委員会において審議
 - ・同月 授業計画（シラバス）決定
- シラバスの公表時期 新年度始めの4月

成績評価の基準・方法

（概要）【様式第2号の3より再掲】

- 学科共通評価基準
 - ・学生へ配布する「学生心得」でも告知している評価方法に従って評価し、ランクはA(優)、B(良)、C(可)、D(不可)とする。
 - ・履修終了の認定は、A、B、Cに与えられる。
 - ・Dの場合、再試験などの救済措置が取られるが、それに対しても不合格だった場合留年が決定する。
 - ・評価項目は次の3項目とする。（項目左の数値は全体評価中の重み）
 - ①出席状況 30%
 - 各科目の授業数に対して、2/3を出席しなくてはならない。
 - 皆勤を満点とし欠席数を授業数に応じて減点していく。
 - ②授業態度・小テスト 30%
 - 各科目の授業内に実施された、小テストの結果、提出物の状況、授業態度などを考慮し、全ての点において問題ない場合、満点を与える。そこから減点していく。
 - ③定期試験・成果物 40%
 - 定期試験は前期末、後期末の年2回実施100点満点で行う。試験結果がそのまま定期試験の点数となる。また、実習科目では成果物が評価対象となる。
 - 評価項目は以上①～③の合計点で最終評価を行う。
 - ・各科目の詳細な評価は、各担当者作成の授業計画の評価基準に応じて評価を行う。
 - ・各学科の学科長は各科目の担当者から挙げてきた評価を総合して纏める。
 - ・纏めたものを前期末・後期末に行われる判定会議にかけ最終評価が決定する。
- ※各科目別の評価基準に関しては授業計画を参照のこと。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 【様式第2号の3より再掲】</p> <p>■ディプロマポリシー</p> <p>水戸電子専門学校は、「地域社会の向上に貢献できる人間性豊かな専門的職業人の養成」のため、各学科の専門分野に関し、専門的知識や技能・実践的能力の修得及び社会人としての力量の涵養を目的とした教育課程について、学則に定める所定の修業年限以上在学し、課程を終了したと認められた者には、卒業を認定し専門士を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教務会議において卒業認定に係る方針（および成績基準）を、「学生心得」に詳細に記載し、それを元に、成績を付与し卒業認定の判定を行う。 ●学生心得にある通り、必要な全ての科目を履修し、成績評価において「D」判定科目が1つも無いことが卒業要件となっている。ただし、教員による「卒業判定会議（卒業試験が終わった2月初旬に実施。※1月に仮判定会議を実施する場合もある）」において、「D」判定のある科目においても、当該科目を担当する教員および当該学生をよく知る教員が「卒業可に値する」と認めた場合、レポート課題や期間限定での補講を実施することによって卒業を認定する措置がとられる。 ●「D」判定の残る学生で、上記措置をとるに値しないと2/3以上の教員が認めた場合、当該学生の保護者も交えた3者（あるいは教員複数参加による）面談を行い、その後学校長と相談の上、「卒業不可」という判定をください。当該学生は「留年」あるいは「退学」の手続きに入る。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定試験対策特別講習を放課後及び休業期間を利用して実施している。 ・就職支援については、個別企業説明会の随時開催、また就職部と担任が連携した就職活動をサポートしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0.0%)	12人 (100.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 県内・県外 IT 企業等			
(就職指導内容) ・就職指導部および担任による面接指導や企業情報指導など履歴書&エントリーシート作成アドバイス、筆記試験講座、企業訪問ツアー、卒業生の講座等に加えインターンシップの導入による現場実習を取り入れている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 情報処理安全確保支援士 応用情報技術者、基本情報技術者、IT パスポート			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43人	2人	4.7%
(中途退学の主な理由) 学習意欲の減退、体調の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生との個人面談及び保護者を交えての三者面談の実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報処理 学科	150,000 円	630,000 円	561,000 円	その他(施設設備費 200,000 円、 実習費 160,000 円、教材費他 201,000 円)
情報メデ ィア学科	150,000 円	630,000 円	581,000 円	その他(施設設備費 200,000 円、 実習費他 160,000 円、教材費他 221,000 円)
情報シス テム学科	150,000 円	630,000 円	561,000 円	その他(施設設備費 200,000 円、 実習費他 160,000 円、教材費他 201,000 円)
修学支援 (任意記載事項)				
通学支援として定期券半額補助や大型スクールバスの運行、一人暮らし支援、特待制度など による学費等の免除を行っている。入学者の保護者または兄弟姉妹が、八文字学園の卒業生 (または在校生)であることによって入学金から 10 万円を免除とする。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校法人八文字学園水戸電子専門学校は、学校評価に関する県警法令等に基づき、学校関係者評価委員会を設置し、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教育水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んでいる。 任期については意向確認後、随時更新をしている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
アイ・イー・シー株式会社	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日	企業役員
茨城デザイン振興協議会	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日	業界団体役員
株式会社新日東	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日	企業委員
J P C 株式会社	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日	企業役員 (卒業生)
一般社団法人茨城県情報サービス産業協会	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日	業界団体役員 (卒業生)
株式会社ピーシーデポコーポレーション	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 10 年 3 月 31 日	企業委員

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/ ※ホームページは、毎年7月に更新する。
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mito.ac.jp/ ※ホームページは、毎年7月に更新する。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H108320100103
学校名 (〇〇大学 等)	水戸電子専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		37人	34人	38人
内 訳	第Ⅰ区分	20人	22人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				38人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—	0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	0人	—
計	—	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料

令和5年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）						
学科名	情報処理工学	学年	1	学生数	64	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	61～70点	71～80点	81～90点	91～100点
人数	11	7	12	16	17	1
下位1/4に該当する人数 16人						
下位1/4に該当する指標の数値 59.1点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）						
学科名	情報メディア学科	学年	1	学生数	12	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	61～70点	71～80点	81～90点	91～100点
人数	1	0	1	9	1	0
下位1/4に該当する人数 3人						
下位1/4に該当する指標の数値 70.3点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）						
学科名	情報システム学科	学年	1	学生数	18	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	61～70点	71～80点	81～90点	91～100点
人数	1	1	3	8	4	1
下位1/4に該当する人数 5人						
下位1/4に該当する指標の数値 67.7点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）						
学科名	情報システム学科	学年	2	学生数	13	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	61～70点	71～80点	81～90点	91～100点
人数	0	1	2	7	3	0
下位1/4に該当する人数 3人						
下位1/4に該当する指標の数値 72.7点以下						

実務経験のある教員等による授業科目一覧

<情報処理学科>

科目名	担当者名	単位時間
アルゴリズム I	平松 浩幸、坂本 大輔	89
ネットワーク基礎	廣戸 悟	22
C言語 I	相田 慎介	44
C言語実習 I	相田 慎介	48
	合計	203

<情報メディア学科>

科目名	担当者名	単位時間
色彩概論 I	橋本 克之	22
Web制作 I	橋本 克之、石井 一徳	45
DTP I	落合 照代、羽石 雅也	68
アニメーションデザイン I	飛田 萌々香	45
	合計	180

<情報システム学科>

科目名	担当者名	単位時間
データベース	秋田 秀才	23
Python	平松 浩幸	45
LINUX基礎	平松 浩幸	22
情報セキュリティ I	相田 慎介	45
AI基礎	兒玉 隆一郎、平松 浩幸	22
マネジメント	兒玉 隆一郎	22
サーバーサイドプログラミング	平松 浩幸、上野 淳	45
LINUXサーバ構築	平松 浩幸	22
	合計	246

学 科	情報処理学科			学 年	1 年		
科目名	アルゴリズム I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	平松 浩幸 / 坂本 大輔 元商品設計・開発経験者		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	89 時間	単位数	4 単位
授業概要	アルゴリズムそのものの理解から始まり、プログラムを書く(処理の流れが考えられる)力を養うことを最重要に考える。加えて、計算機科学の基礎的な内容(計算システム入門、プログラミング方法)も交えて、コンピュータシステムの概念の説明を加えることで、コンピュータの処理動作を理解する。また、本学校で力を入れている[ITPassport, 基本情報]といった資格試験の問題を取り入れ資格取得と同時に、アルゴリズムの理解の補助的な役割に使っていく。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	1時間	オリエンテーション:授業の進め方、概要、評価方法などの説明				
	2	1時間	アルゴリズムとは(基本知識、概要など)				
	3	2時間	アルゴリズムの計算量				
	3	5時間	基本的データ構造(リスト、配列、スタック、キュー、ハッシュ、ヒープなど)				
	4	1時間	確認テスト(基礎部分)				
	5	10時間	探索(線形探索、2分探索木、グラフ探索、幅優先、深さ優先など)				
	6	10時間	整列(バブル、基本選択、基本挿入、ヒープ、マージ、クイックなど主なソート)				
	7	1時間	確認テスト(探索、ソート)				
	8	15時間	TAC問題集				
	9	15時間	ITパスポート向け過去問など。				
	8	7時間	その他 アルゴリズム				
	9	20時間	基本情報処理技術者試験 科目B対応				
	10	1時間	期末試験前 連絡など				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムを考える(プログラムを書く)力をつける ・コンピュータシステムの概念を理解する。 ・ITパスポートにおけるアルゴリズムに関する問題を解く力をつける。 ・計算機科学の楽しさを感じる 						
使用テキスト	書名	アルゴリズム図鑑	書名	基本情報技術者アルゴリズム補助問題集Ver.2.1			
	著者	石田 保輝、宮崎 修一	著者	TAC情報処理技術者試験研究会			
	出版社	翔泳社	出版社	TAC			
	書名		書名				
	著者		著者				
	出版社		出版社				
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %)		出席 (30 %)		提出物 (%)		
	その他 (30 %)		【 小テストおよび授業点 】				
事前・事後学習	予習: 単元ごとに授業を行うので対象キーワードなどの調査 復習: 当該授業に関する問題を解き、理解を深める。以上の繰り返しを行う。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報処理工学			学 年	1 年		
科目名	ネットワーク基礎 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	廣戸 悟 元プログラマとして開発業務に従事		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	22 時間	単位数	1 単位
授業概要	昨今のシステム開発において、ネットワーク技術に関する知識は必須項目である。 ネットワーク技術を活用していくために最低限必要な知識を習得させる。 習得目標は、ITパスポートや基本情報の午前問題が合格できるレベルとする。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	ネットワーク方式について				
	2	2時間	無線LANについて				
	3	4時間	通信プロトコルについて				
	4	2時間	インターネットの仕組み				
	5	2時間	通信サービスの種類				
	6	2時間	Web関連技術				
	7	2時間	電子メール関連の技術について				
	8	4時間	サブネットマスク計算について				
	9	2時間	FWフィルタリング技術				
	10						
	11						
	12						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> IPアドレスによる通信や、ネットワークに関連するプロトコルについて説明出来るようにする。 各ネットワーク機器について、用途や機能を説明出来るようにする。 サブネットマスクの計算やサブネットマスクによるネットワークの指定を出来るようにする。 						
使用テキスト	書名 栢木先生のITパスポート教室 著者 栢木厚 出版社 技術評論社			書名 著者 出版社			
	書名 著者 出版社			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %)		学習態度 (30 %)		提出物 (0 %) その他 (30 %) 【 出席状況 】		
事前・事後学習	復習:各単元の分野の問題を配布し、学んだ部分の理解度について確認する。						
その他	<ul style="list-style-type: none"> 授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下) 						

学 科	情報処理工学			学 年	1 年		
科目名	C言語 I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	相田 慎介 元プログラマ・システムエンジニアとして業務に従事		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	44 時間	単位数	2 単位
授業概要	プログラミングの考え方や基礎知識を習得するため、C言語を取り上げる。C言語の基礎文法を例題を用いて講義する。また簡単なアルゴリズムの構築法と、そのプログラミング法についても講義する。講義において、問題演習を適宜実施することで、「プログラミングの考え方」の習得に努める。また、C言語実習 I と連携して講義を進める。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	4時間	C言語の基本				
	2	4時間	変数の利用と入出力				
	3	4時間	分岐 (if文、switch文)				
	4	4時間	繰り返し (for文、while文、do-while文)				
	5	4時間	制御文を用いたアルゴリズム、理解度確認				
	6	4時間	配列 (1次元配列・2次元配列)				
	7	4時間	文字と文字列				
	8	4時間	文字列処理のアルゴリズム、理解度確認				
	9	4時間	標準関数とその使い方				
	10	4時間	関数の作成				
	11	4時間	関数を用いたアルゴリズム、理解度確認				
	12						
到達目標	プログラミングの考え方を理解し、分岐や繰り返し等の制御構造を用いた処理の流れを説明することができる。C言語の基礎文法を習得し、C言語を用いた簡単なアルゴリズムを構築することができる。						
使用テキスト	書名 例題で学ぶ はじめてのC言語 著者 大石 弥幸、朝倉 宏一 出版社 ムイスリ出版			書名 新・明解C言語 入門編 著者 柴田 望洋 出版社 SB Creative			
	書名 著者 出版社			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %) 学習態度 (50 %) 出席状況 (10 %) その他 (%) 【 】						
事前・事後学習	・事前に教科書内容に目を通し、講義範囲における不明点を明確にしておくこと						
その他	・授業の成績評価は評価方法(比重)に従い総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下) ・授業内で行う演習や小テストの結果を学習態度に含める						

学 科	情報処理学科			学 年	1 年		
科目名	C言語実習 I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	相田 慎介 元プログラマ・システムエンジニアとして業務に従事		
授業形態	実習	開講期	前期	授業時数	48 時間	単位数	2 単位
授業概要	講義科目であるC言語 I と連携したカリキュラムである。C言語を用いたプログラムのトレースや検証を行いながら、プログラミングの考え方を習得する。また定期的に必修課題やプログラム課題演習を実施することで、基礎力や応用力の到達度を確認する。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	4時間	C言語の基本				
	2	5時間	変数の利用と入出力				
	3	5時間	分岐 (if文、switch文)				
	4	5時間	繰り返し (for文、while文、do-while文)				
	5	3時間	プログラム課題演習①、理解度確認				
	6	5時間	配列 (1次元配列・2次元配列)				
	7	5時間	文字と文字列				
	8	3時間	プログラム課題演習②、理解度確認				
	9	5時間	標準関数とその使い方				
	10	5時間	関数の作成				
	11	3時間	プログラム課題演習③、理解度確認				
12							
到達目標	プログラミングの考え方を理解し、分岐や繰り返し等の制御構造を用いた処理の流れを説明することができる。C言語の基礎文法を習得し、C言語を用いた簡単なアルゴリズムを構築することができる。						
使用テキスト	書名 例題で学ぶ はじめてのC言語 著者 大石 弥幸、朝倉 宏一 出版社 ムイスリ出版			書名 新・明解C言語 入門編 著者 柴田 望洋 出版社 SB Creative			
	書名 著者 出版社			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	課題演習 (40 %) 学習態度 (50 %) 出席状況 (10 %) その他 (%) 【 】						
事前・事後学習	・授業時間外にもコンピュータ実習室を使用するなどして、積極的にプログラミングに取り組むこと						
その他	・授業の成績評価は評価方法(比重)に従い総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下) ・必修課題(期間内に必ず提出)の達成度を学習態度に含める ・プログラム課題演習(2～3回授業内で実施)の達成度を課題演習に含める						

学 科	情報メディア学科			学 年	1 年		
科目名	色彩概論 I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	橋本 克之 Web・グラフィックデザイナー		
授業形態	実習	開講期	前期	授業時数	22 時間	単位数	1 単位
授業概要	クリエイティブ領域で必須となる色彩の知識と技術を学んでゆく。AFT色彩検定協会の色彩検定3級を取得することを第一目標に、色彩学全般を学ぶ。一部色彩配色カードを使用した実習を取り入れ、「色を見る・考える」目と感覚を養う。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	オリエンテーション・色はなぜ見えるのか？				
	2	2時間	光と色・眼のしくみ・マンセル色相環				
	3	2時間	照明と色の見え方・混色				
	4	2時間	色の分類と三属性・PCCS色相環				
	5	4時間	PCCS色彩体系・色の表し方				
	6	2時間	PCCSトーン図				
	7	2時間	慣用色名				
	8	2時間	色の心理効果				
	9	2時間	色の視覚効果				
	10	2時間	配色の基本的な考え方				
	11						
	12						
到達目標	1. 色彩検定3級に合格すること 2. 実生活の中で色彩をコーディネートすることができるようになること 3. 仕事上の顧客に色をプレゼンテーションできるようなること。						
使用テキスト	書名 色彩検定公式テキスト3級・UC級 著者 公益社団法人 色彩検定協会 出版社 公益社団法人 色彩検定協会			書名 改訂版 わかる！色彩検定2・3級問題集 著者 長谷川康子 出版社 (株)新星出版社			
	書名 新配色カード 199b 著者 財団法人 日本色彩研究所 出版社 日本色研事業(株)			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %) 学習態度 (30 %) 提出物 (%) その他 (30 %) 【出席状況。上記学習態度には、授業点として提出物・小テストも含め。】						
事前・事後学習	特に事後、学習した内容に沿った小テスト(オンラインまたはプリント)を課す。また、資格試験対策のため長期休暇時に家庭学習を課す。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報メディア学科			学 年	1 年		
科目名	Web制作 I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	橋本 克之 / 石井 一徳 Web・グラフィックデザイナー		
授業形態	実習	開講期	前期	授業時数	45 時間	単位数	2 単位
授業概要	Webサイト制作の基礎を学ぶ。アイデアスケッチ→Photoshopによるビジュアライズ→HTMLとCSSによるコーディングと体系的に学習を進めてゆく。また、Webデザイナー検定取得も見据え、Webデザインの全体像を把握することも目標とする。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	オリエンテーション・Webサイトはどのようにつくられているのか？				
	2	2時間	Photoshopによるビジュアライズを学ぶ				
	3	2時間	ビジュアライズを元にHTMLでサイト構造をつくる①				
	4	2時間	ビジュアライズを元にHTMLでサイト構造をつくる②				
	5	2時間	ビジュアライズを元にCSSでサイトデザインをおこなう①				
	6	2時間	ビジュアライズを元にCSSでサイトデザインをおこなう②				
	7	2時間	Jqueryも交えながら、基本的なサイトデザインの完成を目指す①				
	8	2時間	Jqueryも交えながら、基本的なサイトデザインの完成を目指す②				
	9	2時間	企業サイトのアイデアスケッチ (Topページ) →Photoshopによるビジュアライズスタート				
	10	2時間	企業サイトトップページのビジュアライズ				
	11	2時間	企業サイトトップページ・コーディング①				
	12	22時間	HTML、CSSの基礎(石井)				
到達目標	1. Webサイト制作の実際を知識として習得→Webデザイナー検定ベーシック受験を念頭に置く 2. Photoshop、HTMLとCSS、それぞれの基礎技術習得 3. HTMLとCSSの連携によるサイト制作						
使用テキスト	書名				書名	入門Webデザイン(改訂第四版)	
	著者 出版社				著者 出版社	公益財団法人 画像情報教育振興協会 公益財団法人 画像情報教育振興協会	
使用テキスト	書名	Webデザイナー検定公式問題集			書名	HTML5&CSS3デザイン きちんと入門	
	著者 出版社	公益財団法人 画像情報教育振興協会 公益財団法人 画像情報教育振興協会			著者 出版社	狩野祐東 SBクリエイティブ(株)	
評価方法 (比重)	期末試験 () 学習態度 (70 %) 提出物 () その他 (30 %) 【 出席点30%。また上記学習態度70%は、授業点と課題評価による 】						
事前・事後学習	資格試験対策のため長期休暇時に家庭学習を課す。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報メディア学科			学 年	1 年		
科目名	DTP I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	落合 照代 / 羽石 雅也 ゲーム系グラフィックデザイナー		
授業形態	実習	開講期	前期	授業時数	68 時間	単位数	3 単位
授業概要	デスクトップ・パブリッシング (DTP) の基礎を学習します。印刷物ができるまでの流れを一通り押さえながら、実制作のツールであるAdobe社のIllustrator、Photoshop、InDesignの基幹的操作方法を実習します。「デザイン制作実習 I」と連携しながら、課題に取り組み、知識と技術の定着を図ります。また、3D制作ツールBlenderや映像制作ツールAdobe社のPremiere、AfterEffectsも基本を学んでいきます。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	5時間	DTP基礎 Ai平面構成(点、線、面)				
	2	8時間	DTP基礎 Ai平面構成(ビーマス)				
	3	12時間	DTP基礎 Aiトレース(装飾文字+パターン+キャラクター)				
	4	18時間	DTP基礎 Aiマスコットキャラクター				
	5	2時間	DTP基礎 Ps レイヤー構造				
	6	3時間	DTP基礎 Ps ブラシで絵を描く				
	7	3時間	DTP基礎 Ps 写真加工				
	8	3時間	DTP基礎 Ps 色調、フィルター				
	9	2時間	DTP基礎Ai文字をトレース				
	10	2時間	DTP基礎Ai写真をトレース				
	11	10時間	DTP基礎Ai図形を描く				
	12						
到達目標	1. DTPの基礎的知識を身につけること、数多くの作品を制作すること 2. ツールになれること(Adobe社Illustrator、Photoshop、InDesign)、実制作に活かすこと 3. 自分自身でツールを研究できるようになること(自主的研究を求めます)						
使用テキスト	書名	これ1冊で基本が身につくデザインの教	書名				
	著者		著者				
	出版社	技術評論社	出版社				
	書名	デザインを学ぶ1 グラフィックデザイン基	書名				
	著者		著者				
	出版社	MDN	出版社				
評価方法 (比重)	期末試験(4 0%) 学習態度(3 0%) 提出物 (3 0%) その他 (%) 【 】						
事前・事後学習							
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下) 前期末試験(9月) 試験内容:実技試験						

学 科	情報メディア学科			学 年	1 年		
科目名	アニメーションデザイン I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	飛田 萌々香 イラストレーター		
授業形態	実習	開講期	前期	授業時数	45 時間	単位数	2 単位
	CLIP STUDIO PAINTの基礎を学習します。デジタルイラストを基本からおさえ、CLIP STUDIO PAINTソフトのツールを活用し課題に取り組み、知識と技術の定着を図ります。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	CLIP STUDIO PAINT基礎 ソフト・ツールの使い方(ペン・レイヤー)				
	2	1時間	CLIP STUDIO PAINT基礎 合成レイヤーの仕組み				
	3	1時間	CLIP STUDIO PAINT基礎 ASSETSの使い方				
	4	1時間	CLIP STUDIO PAINT基礎 3Dモデルの使い方				
	5	10時間	3Dモデルを使った3面図の制作				
	6	15時間	人物画 年齢別の書き分け				
	7	15時間	絵柄ごとの書き分け				
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
到達目標	1. CLIP STUDIO PAINTの基礎的知識を身につけること 2. ツールを使いこなせるようになること 3. ソフトを使って作品制作を積極的に行えるようになること						
使用テキスト	書名 プロが教えるCLIP STUDIO PAINT Pro 著者 出版社 技術評論社			書名 著者 出版社			
	書名 スカルプターのための美術解剖学 著者 出版社 ボーンデジタル			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 ()		学習態度 (3 0%)	提出物 (4 0%)		その他 (3 0%) 【 出席状況 】	
事前・事後学習							
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報システム学科			学 年	2 年		
科目名	データベース 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	秋田 秀才 元SE・プログラマー		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	23 時間	単位数	1 単位
授業概要	<p>・MySQLを使用し、データベースを開発・利用できるスキルを習得する。また、MySQLを使用しDBMSのコマンドやSQLの知識を学び、課題をこなすことでノウハウを習得する。</p> <p>・実習でコマンドやSQL実行結果の検証は主にCUIのコマンドプロンプトで検証する。</p> <p>・ER図やテーブル定義書などを利用し、データベース設計とのつながりなども学ぶ。</p>						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	1時間	●データベースの概要				
	2	2時間	●MySQLの概要				
			・MySQLの基礎知識、MySQLモニタの使用法				
	3	4時間	●データベース定義(データベース定義言語(DDL)の実習)				
			<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの作成(Create Database) ・ユーザの作成(Create User) ・テーブルの作成(Create Table) ・データ型とデータの入力 ・定義情報の変更(alter)削除(Drop) ・データの挿入・コピー(Insert select) 				
4	11時間	●データベース操作(データベース操作言語(DML)の実習)					
		<ul style="list-style-type: none"> ・データを編集する(挿入(INSERT)、更新(UPDATE)、削除(DELETE)) ・いろいろな条件で抽出する(SELECT) グループ化(GROUP BY、HAVING) 集約関数(AVG、MAX、MIN、SUM、COUNTなど) ソート(ORDER BY、ASC、DESC) 部分一致(LIKE) 副問合せ(IN、EXISTS) CASE (WHEN THEN ELSE) ・複数のテーブルを利用する 自己結合 UNION、UNION ALL 結合JOIN (内部:INNER、左外:LEFT OUTER、右外:RIGHT OUTER) 					
5	4時間	●MySQLその他知識					
		<ul style="list-style-type: none"> ・INDEXの生成(CREATE INDEX) ・ビューの定義(CREATE VIEW) ・ストアドプロシージャの定義(CREATE PROCEDURE) BEGIN、END、CALL ・デリミタの知識 ・トランザクション コミットとロールバック(COMMIT ROLLBACK) ・ファイルを使ったやり取り インポート(LOAD DATA INFILE) エクスポート(SELECT * INTO OUTFILE FROM) ・リダイレクト ・データベース全体のバックアップ Mysqldumpコマンド ・CASEツール ER図、テーブル定義書の作成 					
到達目標	<p>1. SQLの文法を理解し、課題に対して結果を得ることができる。</p> <p>2. ER図、テーブル定義書を作成することによってデータベース設計の初歩が理解できる。</p> <p>※MySQLを通して、他のRDBMSを使用した開発でも役に立つ、スキルを身につける。</p>						
使用テキスト	書名 3ステップMySQL入門 著者 山田祥寛/山田奈美 出版社 技術評論社			書名 著者 出版社			
	書名 著者 出版社			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %)		学習態度 (10 %)		小テストの結果・課題提出・発表等 (20 %)		
	その他 (30 %)		【 出席状況:30% 】				
事前・事後学習	<p>・教材の演習問題を有効活用し理解度を把握する。</p> <p>・各個人の課題を把握し対応する。</p>						
その他	<p>・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う。</p> <p>・学期末試験で合格点に満たない者には再試験を課す。</p> <p>(A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)</p>						

学 科	情報システム学科			学 年	2 年		
科目名	Python 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	平松 浩幸 元システム開発経験者		
授業形態	講義	開講期	後期	授業時数	45 時間	単位数	2 単位
授業概要	<p>現在AI技術などで多く利用されているpython言語の基礎文法を学び、Pythonプログラミングを習得する。開発環境としてAnaconda、Jupyterなど操作し、ITの現場に必要なプログラミング以外のスキルを習得する。Pythonのライブラリやサンプルコードを実行させ、画像処理やアプリケーションへの利用を体験する。3年前期で学ぶカリキュラム「AI基礎」の前提として、どのようにAIシステムに使用されているかを学ぶ。</p>						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	オリエンテーション、環境構築、Python初歩プログラミング				
	2	4時間	変数、定数、数値、文字列の扱い				
	3	4時間	関数の基本と文字列の操作				
	4	4時間	制御構文その1(for文～繰り返し、if文～条件分岐、論理演算子など)				
	5	4時間	制御構文その2(while文～条件に基づく繰り返し、range関数とreversed関数など)				
	6	4時間	関数の定義と変数のスコープ				
	7	4時間	データの扱い(タプル、集合、辞書、内包表記、ジェネレータ式など)				
	8	4時間	オブジェクト指向の基本と発展的な機能、例外処理				
	9	4時間	標準ライブラリ、モジュール、ファイルIO、JSONなど				
	10	4時間	パッケージの基本				
	11	4時間	機械学習の基礎知識、仕組み、scikit-learnと画像データ				
	12	3時間	ロジスティック回帰による機械学習プログラミング				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> Pythonの文法を理解し、簡単な課題に対してプログラムを完成できる。 Pythonのライブラリやサンプルコードをインストール、実行環境の構築ができる 開発環境のAnaconda、Jupyter、Pycharmを使用し、開発プロセスを理解することができる。 Pythonを利用しAIの初歩のサンプルコード実施して簡単なAIプログラムを理解できる。 						
使用テキスト	書名	わかるPython			書名		
	著者	松浦 健一郎/司 ゆき			著者		
使用テキスト	出版社	SBCreative			出版社		
	書名				書名		
	著者				著者		
評価方法 (比重)	期末試験 (50 %)	学習態度 (10 %)	提出物 (20 %)				
	その他 (20 %)	【 出席 】					
事前・事後学習	<p>予習: 単元ごとに授業を行うので対象キーワードなどの調査 復習: 当該授業に関する理解を深めプログラムを作成・実行を行う。</p>						
その他	<p>・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)</p>						

学 科	情報システム学科			学 年	2 年		
科目名	Linux基礎 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	平松 浩幸 元システム開発経験者		
授業形態	講義	開講期	後期	授業時数	22 時間	単位数	1 単位
授業概要	2年次に行った「Linux基礎」のスキルを元に、各種サーバの構築を行う。サーバサイドの技術を学び、Linuxをサーバマシンとして構築する技術を習得する。LinuxはディストリビューションとしてCentOS7を学ぶ。座学でテキストの内容を知識として習得し、コマンドを入力しながら操作方法を学習する。また、CentOS7は仮想環境VMWAREのゲストOS環境上で学習する。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	1時間	Linux基礎復習および環境確認				
	2	2時間	ファイルサーバーSamba				
	3	2時間	リモート環境構築sshd、TeraTermなど				
	4	2時間	ファイル転送ftpとファイアウォールfirewalld				
	5	2時間	DNSサーバーBIND				
	6	2時間	SMTPサーバーPostfix				
	7	2時間	POPサーバーDovecot				
	8	2時間	コンテナDocker				
	9	2時間	WebサーバーApache HTTP Server				
	10	2時間	アプリケーションサーバTomcat				
	11	2時間	DHCPサーバーdhcpd				
	12	1時間	Linux各種サーバのまとめ				
到達目標	1. Linux上で各種サーバの設定ができる。 2. 各種サーバの具体的な動きが理解できる。 3. その他Linuxを利用するにあたって必要な知識を身につけることができる。						
使用テキスト	書名 できるCentOS7サーバ 著者 辻 秀典 出版社 インプレス			書名 著者 出版社			
	書名 著者 出版社			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (50 %)		学習態度 (10 %)		提出物 (20 %)		
	その他 (20 %)		【 出席 】				
事前・事後学習	予習: 単元ごとに授業を行うので対象キーワードなどの調査 復習: 当該授業後、手順を確認し理解を深める。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報システム学科			学 年	3 年		
科目名	情報セキュリティ I 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	相田 慎介 元プログラマ・システムエンジニアとして業務に従事		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	45 時間	単位数	2 単位
授業概要	<p>昨今重要視される情報セキュリティに関する知見を育てるための授業カリキュラムである。社会人として最低限必要な情報セキュリティの常識や、情報処理技術者として当たり前の情報通信技術を理解することを狙いとす。主にグループワークを取り入れたケーススタディ中心で授業が進行し、ディスカッションを交えながら情報セキュリティに関する考えを深めていくことで、知識だけではなく社会人に必要となる「他者に考えを伝える力」「チームに貢献する力」「情報セキュリティに関する倫理観」も併せ持った人材の育成を図る。</p>						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1		<p>以下のテーマに関するケーススタディ・情報通信技術の調査・ディスカッションを行う。相互意見交換を通じて情報セキュリティに対する関心や考えを深める。(1テーマにつき3～4時間)</p> <p>【テーマ】</p> <p>①不正侵入がひき起こすWebページの改ざん ②急増するサイバー犯罪と法律 ③個人情報流出事件と個人情報保護 ④マイナンバー制度 ⑤ウイルス対策 ⑥情報資産とリスク評価 ⑦セキュリティポリシー ⑧不正アクセスの動機と主体 ⑨ソーシャルエンジニアリング、プライバシーポリシー ⑩危ないWebサイトとTCP/IPの仕組み ⑪Dos攻撃と防御 ⑫アクセス主体をみつけるネットワーク構成 ⑬有線/無線LANとインターネット盗聴対策 ⑭公開鍵暗号方式とPKI ⑮スマートフォンやタブレットの普及</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な情報セキュリティの常識や倫理観を身に付け行動できる。 ・情報処理技術者として当たり前の情報通信技術を理解し説明できる。 ・他者に考えを伝える力や、貢献する力などのコミュニケーション能力が向上する。 						
使用テキスト	書名	情報セキュリティ読本	書名	情報セキュリティの技術と対策がしっかりわかる教科書			
	著者	情報処理推進機構	著者	中村行宏/若尾靖和/林静香			
	出版社	実教出版	出版社	技術評論社			
	書名		書名				
	著者		著者				
	出版社		出版社				
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %)		学習態度 (30 %)		出席状況 (30 %)		
	その他 (%) 【 】						
事前・事後学習	・ディスカッションやプレゼンテーションでは積極的に発言をしていくよう努めること。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報システム学科			学 年	3 年		
科目名	AI基礎 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	兒玉 隆一郎 / 平松 浩幸 元システム開発経験者		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	22 時間	単位数	1 単位
授業概要	<p>人口知能(AI)の基礎知識を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口知能(AI)の概要 人口知能(AI)の内、Neural NetworkおよびGenetic Algorithmを取り扱う。 人口知能(AI)事例を調査する。 Pythonを用い、サンプルを作成。具体的にAIモジュール作成を体験する。 						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	オリエンテーション: AIの歴史と今日のアプリケーション例				
	2	2時間	Pythonの復習およびVscode/Jupyterの利用				
	3	3時間	機械学習NN(Neural Network)の仕組みとその要素技術				
	4	3時間	機械学習NNの構築に必要な数学				
	5	2時間	GA (Genetic Algorithm)				
	6	2時間	実装(1) ゼロから記述するNN - 関数の学習、課題1				
	7	3時間	実装(2) NNエンジンPyTorchの仕組み				
	8	2時間	実装(2) NNエンジンPyTorchの使い方 - MNIST(手書き数字画像)分類問題、課題2				
	9	2時間	実装(3) Genetic algorithm-TSP(Travelling Salesman Problem)問題、課題3				
	10	1時間	まとめ				
	11						
12							
到達目標	人口知能(AI)の基礎知識、および簡単な身に着ける						
使用テキスト	書名	図解即戦力機械学習・ディープラーニングのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書			書名		
	著者	山口達輝, 松田洋之			著者		
	出版社	技術評論社			出版社		
	書名				書名		
	著者				著者		
	出版社				出版社		
評価方法 (比重)	期末試験 () %		学習態度 (10 %)		提出物 (60 %)		
	その他 (30 %)		【 出席 】				
事前・事後学習	特になし						
その他	<p>・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)</p>						

学 科	情報システム学科			学 年	1 年		
科目名	マネジメント 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	児玉 隆一郎 元システム開発経験者		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	22 時間	単位数	1 単位
授業概要	IT基礎知識を中心にテキストに沿って学習していく。ITパスポート試験「マネジメント」分野を合格できる程度の知識習得を目標とする。また、基本情報技術者試験の午前問題にも部分的に対応できるレベルを目指す。 講義による授業、教科書に準拠した問題集並びにITパスポート過去問による小テストを行うことで教科書を補完すると共に理解度を確認する。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	2時間	企画・要件定義と調達				
	2	2時間	システム開発とソフトウェアの見積				
	3	2時間	テスト技法と運用・保守				
	4	2時間	ソフトウェア開発技法				
	5	1時間	NO.1～4のITパスポート過去問による小テスト				
	6	3時間	プロジェクトマネジメント				
	7	2時間	工程管理				
	8	1時間	NO.6～7のITパスポート過去問による小テスト				
	9	2時間	ITサービスマネジメント				
	10	1時間	NO.10のITパスポート過去問による小テスト				
	11	2時間	システム監査				
	12	1時間	NO.12のITパスポート過去問による小テスト				
	13	1時間	まとめ				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 要件定義, 設計, プログラミング, テストなどシステム開発のプロセスの基本的な流れを理解する。 システム開発における見積りの考え方を理解する。 アジャイルなどをはじめとする, 代表的な開発モデルや開発手法に関する意義や目的を理解する。 プロジェクトマネジメントの意義, 目的, 考え方, プロセス, 手法を理解する。 IT サービスマネジメントの意義, 目的, 考え方を理解する。 システム監査の意義, 目的, 考え方を理解する。 						
使用テキスト	書名	栢木先生のITパスポート教室		書名	栢木先生のITパスポート教室準拠書き込みドリル		
	著者	栢木厚		著者	栢木厚		
	出版社	技術評論社		出版社	技術評論社		
	書名			書名			
	著者			著者			
	出版社			出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (40 %)		学習態度 (10 %)	小テスト (20 %)		その他 (30 %) 【 出席 】	
事前・事後学習	予習: 単元ごとに授業を行うので対象キーワードなどの調査 復習: 当該授業に関する問題を解き、理解を深める。以上の繰り返しを行う。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						

学 科	情報システム学科			学 年	3 年		
科目名	サーバサイドプログラミング 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	平松 浩幸 / 上野 淳 元システム開発経験者		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	45 時間	単位数	2 単位
授業概要	<p>Javaを利用したwebアプリケーションのプログラミング方法をテキストに沿って学習していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JSPおよびサーブレットの文法を学習。項目は下記授業項目参照。 ・HTTPリクエスト、レスポンス、セッション管理、アクセサ、DAO、DTOなどの学習する。 ・デザインモデルはMVCモデルを想定。開発環境はEclipse。APPサーバ環境はTomcatを想定。 ・座学での知識習得後、実習環境で課題作成を行う。 						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	1時間	オリエンテーションと開発環境確認・準備				
	2	4時間	サーブレットの基本/サーブレットによるリクエストの処理/リクエストパラメータ				
	3	4時間	JSPの基本/JSPによるリクエストの処理とエラーページ				
	4	6時間	画面遷移方法/MVCモデル				
	5	6時間	フィルタの作成/サーブレットの詳細				
	6	6時間	HTTPのリクエストとレスポンス				
	7	6時間	Javaとデータベースの連携				
	8	4時間	JavaBeansとDAO				
	9	4時間	スコープとリクエスト属性				
	10	6時間	セッション、クッキー				
	11	6時間	外部データの読み込み				
	12	3時間	JAVAサンプルWARファイルデプロイ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. JAVA(JSP・サーブレット)の文法を理解し、簡単な課題に対してプログラムを完成できる。 2. DBと連携し、取得結果をHTMLで出力する結び付け、webアプリケーションのコーディングを習得できる。 3. 開発環境のEclipseを使用することにより、開発のプロセスを理解することができる。 						
使用テキスト	書名	基礎からのサーブレット/JSP 新版			書名		
	著者	松浦健一郎、司ゆき			著者		
	出版社	SB Creative			出版社		
	書名				書名		
	著者				著者		
	出版社				出版社		
評価方法 (比重)	期末試験 (50 %)		学習態度 (10 %)		提出物 (40 %)		
	その他 (%)		【 出席 】				
事前・事後学習	特になし						
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う <p>(A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)</p>						

学 科	情報システム学科			学 年	3 年		
科目名	Linuxサーバ構築 実務経験のある教員等による授業科目 有			担当教員	平松 浩幸 元システム開発経験者		
授業形態	講義	開講期	前期	授業時数	22 時間	単位数	1 単位
授業概要	2年次に行った「Linux基礎」のスキルを元に、各種サーバの構築を行う。サーバサイドの技術を学び、Linuxをサーバマシンとして構築する技術を習得する。LinuxはディストリビューションとしてCentOS7を学ぶ。座学でテキストの内容を知識として習得し、コマンドを入力しながら操作方法を学習する。また、CentOS7は仮想環境VMWAREのゲストOS環境上で学習する。						
授業計画 (スケジュール)	No	スケジュール	授業項目				
	1	1時間	Linux基礎復習および環境確認				
	2	2時間	ファイルサーバーSamba				
	3	2時間	リモート環境構築sshd、TeraTermなど				
	4	2時間	ファイル転送ftpとファイアウォールfirewalld				
	5	2時間	DNSサーバーBIND				
	6	2時間	SMTPサーバーPostfix				
	7	2時間	POPサーバーDovecot				
	8	2時間	コンテナDocker				
	9	2時間	WebサーバーApache HTTP Server				
	10	2時間	アプリケーションサーバTomcat				
	11	2時間	DHCPサーバーdhcpd				
	12	1時間	Linux各種サーバのまとめ				
到達目標	1. Linux上で各種サーバの設定ができる。 2. 各種サーバの具体的な動きが理解できる。 3. その他Linuxを利用するにあたって必要な知識を身につけることができる。						
使用テキスト	書名 できるCentOS7サーバ 著者 辻 秀典 出版社 インプレス			書名 著者 出版社			
	書名 著者 出版社			書名 著者 出版社			
評価方法 (比重)	期末試験 (50 %)		学習態度 (10 %)		提出物 (40 %)		
	その他 (%)		【 出席 】				
事前・事後学習	予習: 単元ごとに授業を行うので対象キーワードなどの調査 復習: 当該授業後、手順を確認し理解を深める。						
その他	・授業の成績評価は学期末に実施される試験、実習の成果、履修状況を総合的に勘案して行う (A・・・80点～100点 B・・・60点～79点 C・・・40～59点 不可・・・39点以下)						